

支援プログラム

以下の活動を中心に、個々の子どもに合わせたプログラムを実施していきます。

- **個別指導**：子ども一人ひとりの特性に合わせた支援を行います。
- **自立課題学習**：社会性を育むことを目的に、自分で課題に取り組む力を育てます。
- **小集団活動**：他者との関わりを経験する機会を提供します。
- **創作活動**：表現力や創造性を引き出します。
- **余暇活動**：楽しみながら学べる活動を取り入れます。
- **体験活動**：五感を活かした経験を重ね、発達を促進します。

障害児通所支援において、子どもたち一人ひとりが抱える課題や可能性を丁寧に見極め、生活や発達に必要なスキルを獲得できるよう支援します。そのため、フォーマルアセスメント（標準化された評価）やインフォーマルアセスメント（日常観察や聞き取り）を活用し、以下のステップで支援を行います。

1. 発達段階や課題の明確化

子どもの発達段階、困りごと、伸ばしていける力を把握します。これにより、支援の方向性を明確化し、具体的な目標を設定します。

2. 課題の分析と計画の作成

分析した課題を基に、スモールステップ方式で無理のない計画を立案します。子どもが達成感を得ながら成長できるよう工夫を凝らします。

3. 包括的な支援の実施

以下の「3つの柱」を基に支援を進めるとともに、5つの領域にわたる活動を通じて多角的な支援を提供します。

3つの柱

1. 発達を促す

社会性、生活能力、コミュニケーション能力の向上を目指し、基礎感覚（視覚・聴覚・触覚など）を活用した活動を行います。これにより、注意力や自己制御力を育む環境を整えます。具体的には、以下のような取り組みを行います。

- ・ 視覚や聴覚を刺激するゲームや遊び
- ・ 感覚統合トレーニングを通じた基礎スキルの向上

2. 実行機能を育てる

子どもたちが「考える」「計画する」「実行する」といったプロセスを習得できるよう支援します。ワーキングメモリや注意コントロール力を高める活動を取り入れ、日常生活や学習に活用できるスキルを育成します。具体例として、以下を実施します。

- ・タスクを小さなステップに分けて順序立てて進めることで、計画性や達成感を育む取組み。
- ・タイマーなどを活用して、時間配分や順序を守る意識を身につけられるよう工夫した取組み。

3. 代替行動を教える

不適切な行動を適切な行動に置き換えるため、代替行動の指導を行います。子どものニーズや環境に応じた具体的な方法を教え、自己表現や問題解決のスキルを育てます。たとえば、以下のような支援を行います。

- ・子どもたちが感情を適切に伝えたり、状況に応じた行動を考えたりする経験を積む活動。
- ・子どもがその場にふさわしい行動を理解し、自分で選択できるようサポートする取組み。

5つの領域

1. 健康・生活

子どもたちが健やかで充実した生活を送れるよう、基礎的な生活習慣や健康管理を支える取組みを積極的に進めます。言語聴覚士や作業療法士が在籍している強みを活かし、以下のような支援を行います。

摂食指導や嚥下指導

センターでの食事提供は行いませんが、個別療育時に家庭で普段召し上がっている食事を持参していただき、保護者の方と一緒にお子さまの様子を観察しながら進めていきます。お子さまが楽しく取り組めるよう、安心できる環境づくりを大切にしながら、発達段階に応じた食事の方法や進め方をお伝えします。

日常生活の中で無理なく進むよう、スモールステップを取り入れます。例えば、食事の場面だけでなく、日常の遊びや会話、水分を摂るときの工夫など、食事以外の場面も活用しながら、嚥下の機能向上を目指します。

また、ご家庭でもスムーズに実践できる方法をアドバイスし、保護者の不安や負担を軽減するための支援を行います。

食具の使い方の習得

スプーン、フォーク、箸などの使用方法をスモールステップに分け、子どもが楽しみながら自然に身につけられるよう工夫します。また、遊びを通して手指の機能を育てる活動を取り入れ、指先を使うおもちゃや道具を活用しながら、5指の機能分化を促します。

具体的には、ブロック遊びや粘土遊び、指先を使う簡単なクラフト活動を通じて、食具の操作に必要な手指の力や動きのコントロールを楽しみながら養います。これにより、食具を使う際の基本的な動作がスムーズになり、子どもが無理なく自信を持って食事に取り組めるようサポートします。また、これらの活動をご家庭でも取り入れていただけるよう、保護者の方とも連携しながら丁寧にサポートします。

保護者への実践的なサポート

わかりやすい説明を心がけ、保護者と一緒に実践しながら、子どもとの関わりに自信を持てるよう支援します。

学びや発見の機会の提供

子どもたちの成長を保護者とともに喜び合いながら、子育てがさらに楽しいものになるよう、保護者自身が新たな学びや発見を得られる場を提供します。

2. 運動・感覚

運動能力や感覚機能の向上を目指し、子どもたちの特性に合わせた多様なプログラムを提供します。これらのプログラムを通じて、楽しみながら身体的・感覚的なスキルを伸ばす環境を整えます。

運動能力を高める取り組み

以下のような体を動かす活動を取り入れます。

- ・ バランスボールやトランポリンを使い、体幹を強化する活動。
- ・ 平均台を使った歩行や姿勢保持など、バランス感覚の向上をねらった活動。
- ・ サーキットを活用し、楽しみながら全身を使う運動。

感覚機能を育てる取り組み

感覚刺激を活用したプログラムを通じて、様々な感覚の発達を促します。

- ・ 触覚や視覚、聴覚を刺激する感覚遊び（例：砂や水を使った遊び）。
- ・ 光や音を活用した落ち着きのある環境で、リラックスしながら感覚を整える活動。

3. 認知・行動

子どもたちが認知力や行動力を身につけられるよう、以下のような活動を行います。これらの活動を通して、子どもたちが生活の中で認知力を活かせるよう支援します。

情報を理解する力

・物事を知る力

目の前のものが何なのか、形や色、大きさなどを観察して理解する力を育てます。例えば、ブロックで形を作ったり、指示通りに物を運んだりすることでこの力を伸ばします。

・言葉や指示を理解する力

言葉やジェスチャーを通じて伝えられる内容を理解し、それを行動に移す力をサポートします。例えば、ルールがある遊びや簡単な指示に従うなどの活動を取り入れます。

記憶や学ぶ力

・覚えて思い出す力

新しいことを覚え、それを必要なときに思い出して活用できる力を育てます。たとえば、「教わった方法でブロックを積む」といった活動を通して、その力を伸ばしていきます。

・繰り返し学ぶ力

これまでの経験をもとに、新しいことを学び、それを何度も繰り返すことでしっかり身につけられる力を育てます。

問題を解決する力

・どうすればいいか考える力

困ったときや課題に向き合ったときに、どのように解決すればいいかを考える力を育てます。簡単なタスクを順番にこなすことで、計画を立てる経験を積みみます。

・行動を選ぶ力

いくつかの選択肢から、何をするのが良いかを選べるようサポートします。たとえば、「どちらの道を通るか」を一緒に考えるような場面を作ります。

集中する力

・注意を向ける力

必要なことに集中し、その注意を続ける力を育てます。カードを使った遊びやタスクを通して、楽しく身につけられるよう工夫します。

・気を散らさない力

スモールステップで、周りの刺激に影響されず、一つの活動に取り組める力を育てます。

物の形や位置を理解する力

・ものの位置を知る力

物の右や左、大きさや位置関係を理解する力を育てます。例えば、「物を決まった場所に置く」活動を通じて、この力を伸ばします。

・絵や図を活用する力

絵や図を見て、それを再現するような活動を通して、視覚的な認知力を高めます。

計画して実行する力

・計画を立てる力

ゴールに向かって、何をどうすれば良いかを考え、順序立てて行動する力を育てます。例えば、片付けや順番を待つことで、その力を身につける機会を提供します。

・行動に移す力

計画したことを実際に行動に移すことで、自信を育てられるよう支援します。

気持ちと行動を結びつける力

・気持ちを理解する力

自分や相手の気持ちを理解する力を育てます。「相手が怒っている」「自分が悲しい」といった感情に気づけるようにします。

・気持ちに合った行動を選ぶ力

感情に応じて、どう行動すれば良いかを学びます。例えば、役割遊びや人形を使った遊びを通じて感情を伝える活動を行います。

望ましい行動への置き換え

子ども一人ひとりの状況や特性に合わせて、不適切な行動を適切な行動に変える代替行動を指導します。例えば、友だちを叩く代わりに「嫌だ」と伝える方法や、困ったときに「助けて」と伝える力を育てます。

気持ちをコントロールする力

怒りや不安を抑えて落ち着いて行動できるようになる力を育てます。順番を待つ、イライラせずに友だちと遊ぶといった経験を積み重ねます。

相手とうまく関わる力

挨拶や感謝の気持ちを伝えるなど、他の人と気持ちよく関わる力を育てます。

協力する力

友だちやグループで目標を達成する力を育む活動を行います。

ルールを守る力

遊びやゲームのルールを守り、指示に従う力を養います。

4. 言語・コミュニケーション

子どもたちが自分の気持ちや考えを伝え、安心して他の人と関わる力を育めるよう、特性や発達段階に合わせた活動や交流を通じて支援しています。言葉やコミュニケーションの力を自然に身につけられる環境を提供します。

言葉の理解と表現を育てる支援

・絵カードやシンボルを使った活動

絵カードやシンボルを取り入れ、言葉の意味を理解しやすくし、簡単な会話ややり取りを楽しむ機会を作ります。

・指さしやジェスチャーを使った表現の支援

言葉に頼らず、指さしやジェスチャーを使って気持ちや考えを表現できる方法を身につけられるよう促します。

発達に応じた・一人ひとりに合わせた工夫

・視覚的なツールや実物を活用

状況がわかりにくい子どもには、簡潔で理解しやすい指示やイラストを使い、日常の流れがわかるスケジュール表や選びやすいツールを活用して、自分の意思を伝える場を作ります。また、具体的な物や道具を使った説明を取り入れ、何度も繰り返すことで少しずつ理解を深められるよう配慮します。

・小さく達成しやすいステップに分けた活動

短い時間で取り組める活動を通じて、少しずつ自信を育みながら他の人と関われる場を整えます。

・音や感覚を取り入れた活動

音やリズムを楽しむ活動や、触覚を刺激する遊びを通じて、楽しい体験の中でコミュニケーションの幅を広げていきます。

5. 人間関係

子どもたちが他の人と良い関係を築きながら成長できるよう、集団での活動や対人スキルを育てる取り組みを行います。子どもたちが自分の周りにある環境に興味を持ち、他の人の存在を意識しながら自然に関われるような場を大切にします。

協力し合う力を育てる活動

・グループでの活動

簡単なゲームや課題を通して、他の子どもたちと協力し合う経験を大切にします。たとえば、「みんなで一緒に大きな絵を完成させる」「順番にボールを渡す」といった活動を通じて、役割を果たすことや順番を待つことの大切さを自然に学びます。

・日常のやり取りを大切にできる場

あいさつやお礼を伝える場面を設けることで、日常の関わり方を身につけられる環境を整えます。

社会的な関わり方を育てる支援

・ごっこ遊びやロールプレイ

相手の気持ちを考えたり、順番を守るといった基本的なルールを自然に学べる場を作ります。

・協力する体験

他の子どもたちと一緒に目標を達成する楽しさを体験し、協力する力を身につけられる環境を整えます。

感情を理解し、伝える力を育てる活動

・ロールプレイによる実践的な体験

生活の中で起こりうる場面を想定し、一緒に考えながら気持ちを言葉で伝える方法を学びます。たとえば、「おもちゃを貸してほしいときの伝え方」を具体的に考え、実際に試してみる活動を行います。

・感情を理解する力を育てる工夫

絵本や紙芝居を通して、他の人の気持ちに気づく力を育てます。